

国立国語研究所学術情報リポジトリ

平成15年度日本語教育研究プロジェクトコース

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1899

平成 15 年度日本語教育研究プロジェクトコース

1. 目的

本コースは、日本語教育に携わる現職者を対象として、日本語教育の改善のために、社会的文脈において日本語教育を位置付けられる広い視野と、日本語教育に関する問題を科学的に追究することのできる専門的知識を身につけた人材を養成することを目的とする。

そのために、日本語および日本語教育に関する研究機関である当国立国語研究所の特性を活かし、研修生が国立国語研究所の実施する日本語教育に関するプロジェクトに参加することを通して、日本語教育研究のための知識や手法を実践的に学びつつ、教育の改善への新たな視点を獲得する機会を提供する。

2. 期間

2004年1月22日～2004年10月21日

3. 研修概要

【研修テーマおよび趣旨】

「日本語作文の評価と、それに基づく指導法の開発に関する調査研究」

作文指導においては、学習者の知識・能力やニーズに合わせて、複数の指導法からもっとも適切なものを選んでいくことが必要と考えられる。このプロジェクトでは、1) 書かれた作文から学習者の言語形式に関する知識、論理を構成する能力、などを適切に評価するにはどうしたらいいか、2) 学習者の知識・能力等に合わせた作文指導を行っていきにはどうしたらいいか、について考えることを目的とする。

【研修活動】

コース参加者は、国立国語研究所の設定・実施する特定の日本語教育研究プロジェクトに参加する形で、プロジェクトテーマに関する調査

を各参加者の設定した範囲で実施し、調査研究を進める。

調査研究を進めるにあたって、定期的に国立国語研究所で会合を持ち、活動に必要な理論的背景や研究手法についての講義や演習を行う。そして、会合での検討をもとに、コース参加者各自が調査を実施し、その結果を再び持ち寄って報告や検討を行う。

4. 対象および定員

原則として、日本語教育に関する実務に携わる者を対象とする。定員 10 名

5. 応募資格

以下の項目を全て満たすこと

(ア) 原則として、日本語教育に関する職務に関わった経験を有すること（特に、コース参加期間中に作文教育の現場を持っていることが望ましい）。

(イ) 国立国語研究所のコース担当者、他の参加者との連絡あるいは討議等に電子メールが使えること。

(ウ) 本コースでの活動経過および成果に関する資料が、国立国語研究所の行う教師教育研究の基礎資料となることを了解すること。

6. 募集

2003年11月より募集案内の配布と Web ページによる募集を開始した。

応募書類受付：2003年12月8日（月）必着

7. 選考

応募者数：10 名

第一次選考（書類および事前課題）：2003年12月9日（火）

合格者数：10名

第一次結果通知：2003年12月9日（火）

第二次選考（事前課題に基づくディスカッション等）：2003年12月11日（木）

合格者数：10名

最終結果通知：2003年12月19日（金）

8. 研修経過および成果

【全体の経過】

- 1月22日 開講式，オリエンテーション，研究所の学習者作文データ収集プロジェクトに関する概要説明
- 2月12日 講義1 「教師の添削とそのプロトコル分析」石橋玲子先生（茨城大学）
- 2月19日 講義2 「添削者による視点の違い」深澤のぞみ先生（富山大学）
- 3月18日 調査研究計画検討（1）
- 3月25日 調査研究計画検討（2）
- 4月1日 講義3 「ライティングにおける評価」田中真理先生（電子通信大学）
- 4月15日 中間発表・ディスカッション
- 5月20日 中間発表・ディスカッション
- 6月17日 中間発表・ディスカッション
- 7月15日 中間発表・ディスカッション
- 8月19日 中間発表・ディスカッション
- 8月26日 勉強会 「日本語作文教育研究の概観」池田玲子先生（東京海洋大学）
- 9月16日 中間発表・ディスカッション
- 9月30日 修了レポート 第1稿提出
- 10月18日 修了レポート 修正版提出
- 10月19日 修了判定
- 10月21日 修了発表会・修了式

【修了レポート題目】

成田高宏「作文能力熟達度試験における評価システム構築のための基盤的研究—評価者間個人差の影響を受ける評価項目をどう扱う

か—」

武田聡子「フィードバック重視の一般学習者対象『作文通信研修コース』開設に向けて～添削者によるフィードバックと受講生の作文力向上との関連性～」

村内倫子「添削における視点—日本語教師への調査から—」

山中都「上級クラスでの学習効果を上げる作文の分析的評価表の作成の試み—学習者の弱点の明示的な評価項目の設定—」

吉本恵子「日本人サポーターの支援を受けた作文授業—自分の言いたいことを自由に表現する試み—」

渡部裕子「意見文における内容面での自律的な推敲能力育成を目指したチェックリスト使用の試み—問題を提起し解決策を述べる意見文の場合—」

川上麻理「日本語教育の作文評価における『内容』の定義について—文章のジャンルが内容の評価にどう影響するか—」

澤田尚美「初級レベルにおけるピア・レスポンス」

吉田美登利「アカデミック・ライティングにおける論理的な意見文—『主張』に対する『サポート』の妥当性」

戸叶万里「学習者が自分の作文を読み直す活動を取り入れた作文授業」

以上、10名修了

【修了発表会】2004年10月21日（木）

国立国語研究所において、研修成果をポスターセッションの形で発表する研究会を開催。

（記：宇佐美 洋）